

Q

大雪に対して、市の除雪機能は働いたか？

A

記録的な積雪に、対応が追い付かない面もあった

吉田幸太郎

問 主要幹線道路がほぼ2日間マヒ状態だったが、除雪が遅れた原因は何か。

答 2月15日未明には雨になるとの予報だったので、15日朝から除雪してもらうよう業者に指示を出したが、予想以上に積雪量が多く、作業員が重機置場へ行くのに時間を要した。また、道路上で動けないでいる車両が多く、重機でさえも思うように進まず作業が遅れてしまった。

問 今後の対策はどう考えているか。

答 今以上に気象情報の研究・把握に努める。また、市内業者の重機保有台数を把握し、協力業者を増やせるよう検討する。

問 市の災害対策本部の初期対応は適切だったか。

答 2月15日午前10時20分に、市長を本部長とする災害対策本部を設置し、市役所の全男性職員を招集した。また、防災行政無線や市のホームページ、ツイッターにより市民へ大雪に関する注意喚起を行った。警察や消防団との協働体制も取った。さらに、市民からの問い合わせ対応のためコールセンター



Q

大雪による緊急車両の出動に支障はなかったか

A

傷病者を搬送するのに通常より大幅に時間がかかった

武井伸一

問 60センチメートルを超える大雪の中で緊急車両の出動は大変だったと思うが、どんな苦労があったのか。

答 深い雪により車両が動けなくなり隊員がスコップを使用し除雪を繰り返して走行した。また現場近くまで車両が到着できず一キロ程徒歩にて現場に向かった事案もあった。傷病者を搬送するのに通常より大幅に時間がかかった。

地域によって除雪の差が出たが

問 今度の経験で災害時の地域の助け合い共助・自助の必要性を感じた。今後の災害対策に生かすべきだと思うが。

答 今回の大雪により、自助・共助の重要性を改めて痛感した。今後は地域の力を十分に発揮できるように、自治会や、自主防災組織と協力しながら災害の軽減に努力していく。

農業施設の今後の対策は

問 農業施設の被害は壊滅的な状態だが今後の対策は。

答 農業用ハウス、畜舎等の撤去は農家の負担なしで撤去できる。再建は農



Q

「共に助け合う心」の醸成を願う

A

除雪において市民の皆さまの協力に感謝している

石川克正

問 大雪の対応を批判する質問が多い。現場の対応を知らずに指摘するばかりでは、行政と市民の信頼関係を崩しかねない。市の危機管理意識は高いと感じたので聞か、当時、近隣市町の災害対策本部の設置と職員招集の状況は。

答 対策本部は近隣市町ではいち早く立ち上げた。担当部署のみならず男子職員を15日に召集かけたのは深谷だけであり、ほとんどが徒歩で集まってくれた。

問 この大雪から我々が何かを学ぶとすれば、自助・共助・公助のあり方であると思う。私たちの地域は私たちが守り、助け合う精神も垣間見られたのではないか。

答 ある自治会長からのお話だが、普段は挨拶もままならない近所さん同士が共に除雪作業に励む光景が見受けられたとのお知らせをいただいた。

問 今回の除雪にかかった費用は。約6500万円である。

協働事業を進展させよう 自助・共助・公助の精神を育む



救急病院周辺を除雪中の市職員と通勤する住民

めには市と市民との間に信頼関係が築けている必要があり、その意味では協働事業は重要な施策である。除雪の際に見られた助け合いのシーンの多くには、地域のリーダーの存在があったが、協働事業の発展に生かせないか。

答 26年度予算に掲げている「協働のまちづくり推進事業」において、深谷まちづくりマスター制度の検討も加えている。地域リーダーの存在を意識した協働事業について研究していく。

Q

深谷市川本道の駅駐車場白線等の整備

A

即刻、対応していく

永田勝彦

問 川本道の駅農産物直売所の駐車場白線ラインは経年劣化摩耗不鮮明。車両等々の安全の観点から即刻修復を。

答 現地調査の結果、安全の確保、事故防止の観点から至急対応していく。

ふるさと納税

問 ふるさと納税制度を取り入れ、深谷市農業品等のPR、加えて歳入増を図るべく検討されたし。

答 自主財源の確保と深谷市の魅力を発信するべく、さらに農業振興を望み、関係団体と連携し推進実施していく。

記録的大降雪による農業大被害

問 未曾有で記録的な大雪により市民、事業者、農家は甚大な被害を受けた。特別に農業の被害は目を覆う大事件。私見だが、国県の支援は一考慮を超えた結果をいただいた」と感謝している。市の国・県への方策はどのように展開したのか。

答 深谷市の「農業ハウス」被害は甚大。農業の再建・伸長を図るには何が求められるか。熟慮の末、国県へのた



川本田中新田地区